



いざというときに

車載工具の使いかたや、車を運転するうえで
いざというときの処置の方法について
説明しています。

■ 工具類

格納場所-----	180
ジャッキの使いかた-----	182

■ いざというときの処置

スタック（立ち往生）したとき-----	185
故障したとき-----	186
けん引される時-----	187
パンクしたとき-----	190
応急用スペア タイヤ-----	190
タイヤ交換-----	193
バッテリーあがりの処置-----	197
オーバーヒートの処置-----	198
ヒューズの交換-----	199
電球（バルブ）交換-----	202
キーを閉じ込めたとき-----	208
車両を緊急停止するには-----	209
事故が起きたとき-----	210



工具類

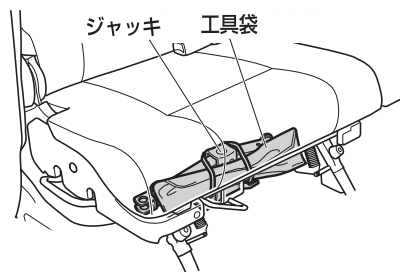
格納場所

△注意

- スペア タイヤ、ジャッキ、工具は所定の位置にしっかり固定してください。室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具が体に当たるなど、大変危険です。

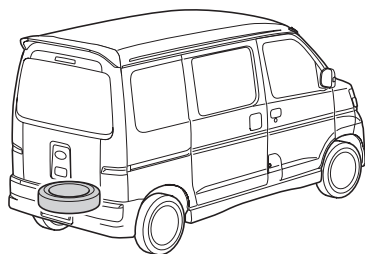
工具の位置

リヤ シート下部に収納しています。工具袋の中にジャッキ ハンドル、ホイール ナット レンチ、けん引フックが入っています。



スペア タイヤの位置

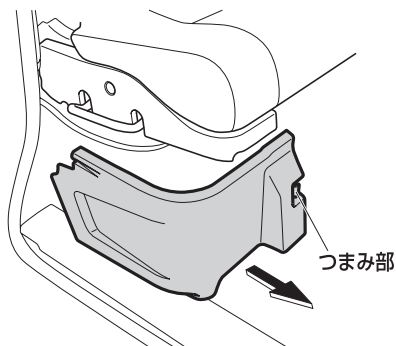
リヤ ゲート下部に収納しています。



工具の取り出し、取り付け

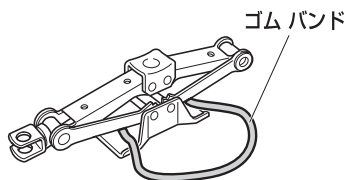
○取り外し

サイド カバーのつまみ部をつまみながら矢印の方向へ動かします。

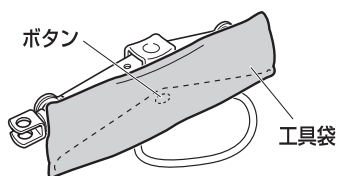


○取り付け

1. 付属のゴム バンドをジャッキの下部に取り付けます。



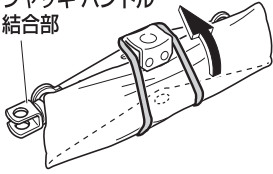
2. 工具袋をボタンのない側を手前にして、ジャッキの前側に置きます。





3. 工具袋の中にある工具をジャッキ ハンドル結合部側に寄せ、ゴム バンドをジャッキの上部にかけます。

ジャッキ ハンドル
結合部



工具袋

タイヤ交換のときなどに使用します。

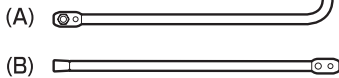
工具袋



ホイール ナットレンチ



ジャッキ ハンドル



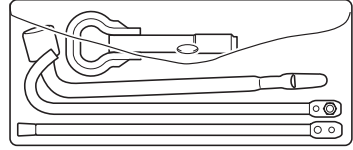
けん引フック



アドバイス

工具を収納する場合

- 振動で音が発生するおそれがありますので、下図のように収納してください。





ジャッキの使いかた

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキが外れると大変危険です。
- ジャッキ アップするときはジャッキの上や下に物を挟まないでください。
- ジャッキ アップするときは、必ず、駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーをPレンジにして、輪止めをしてください。車が動き出すおそれがあり危険です。
- ジャッキは砂や石ころのない安定した平らなかたい場所を選んでセットしてください。ジャッキ アップしたとき、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車に備え付けのジャッキは、タイヤの交換およびタイヤ チェーンの脱着以外には使用しないでください。
- ジャッキ アップするときは、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。
- ジャッキは、セット位置以外にかけないでください。外れたり、車を損傷するおそれがあります。
- ジャッキ アップするときは、人や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキは、伸ばすほど不安定になります。タイヤが地面から 3cm以上離れないようにしてください。
- ジャッキ アップしているときは、エンジンをかけないでください。

⚠警告

- タイヤのローテーション時などに、車載のジャッキを用いて、両車輪同時に上げるようなことはしないでください。接地しているタイヤが動き、車体がずれるおそれがあります。

⚠注意

- 車に備え付けのジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。車を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

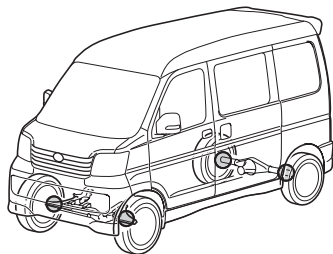


ジャッキをセットする位置

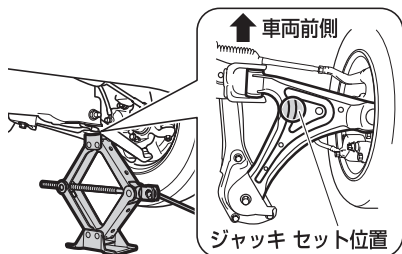
ジャッキは必ずジャッキ セット位置にセットしてください。

▼セットする位置

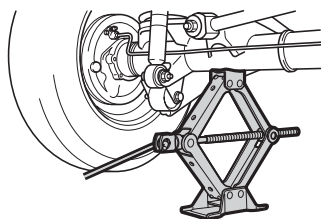
取り替えるタイヤに近いジャッキ セット位置にセットします。



○フロント

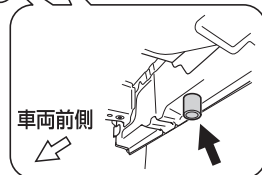
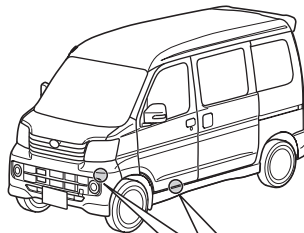


○リヤ



アドバイス

- 下図の位置は、整備（2 柱リフト）用です。車に備え付けのジャッキでのジャッキ アップ用ではありません。

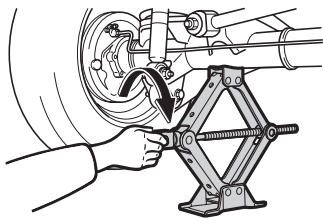




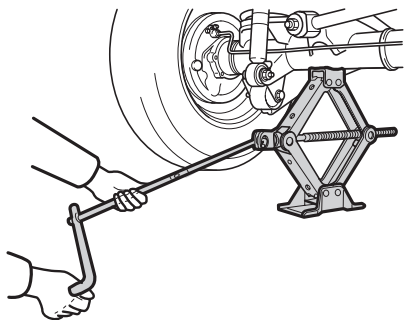
ジャッキのかけかた

▼操作手順

1. ジャッキを手で回して、セット位置まで上げます。

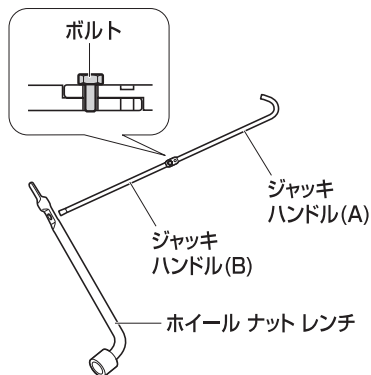


2. ジャッキが確実にセット位置にかかっていることを確認し、ジャッキハンドルを使って、タイヤが地面から少し離れる位置まで車を持ち上げます。



アドバイス

- ジャッキハンドルは、ジャッキハンドル(A)とジャッキハンドル(B)のくぼみを合わせ、ボルトで固定し、ホイールナットレンチの穴に差し込んで組み立ててください。





いざというときの処置

スタック（立ち往生） したとき

スタックから脱出するには

ぬかるみや砂地、深雪路などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、下記の手順にしたがって脱出操作をしてください。

▼脱出操作をする前に

⚠警告

- 必ず周囲に他の車、物、または人がいないことを十分に確認してください。スタックから脱出する際に、車が前後に飛び出したり、あてがった石や木が飛散したりするおそれがあり危険です。
- セレクト レバーを操作するときは、アクセル ペダルを踏んだまま操作しないでください。車が急発進したり、トランスミッションなどに重大な損傷をあたえるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセル ペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

- 数回試して脱出できないときは、脱出操作を中止し、けん引による救援を依頼してください。

（けん引されるとき→ 187 ページ）

▼脱出手順

1. 駐車ブレーキをかけ、セレクト レバーを回レンジに入れ、エンジンを停止します。
2. タイヤ前後の土や雪などを取り除きます。
3. スリップしているタイヤの下に、石や木などをあてがい滑り止めになります。
4. エンジンを始動します。
5. セレクト レバーをD、またはRレンジに確実に入れ、注意しながら、アクセル ペダルを軽く踏みます。





いざというときに いざというときの処置

故障したとき

エンスト

安全な場所まで移動してください。
付近に人がいる場合は押しもらってくだ
さい。

⚠️注意

- 車を押す場合、セレクト レバーは **N** レンジにしてください。

👉アドバイス

- 緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。

○踏切内の場合

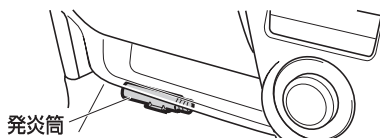
踏切内で動かなくなったり、脱輪などで
すぐ動かせない場合は、**ただちに踏切の
非常ボタンを押してください。**

発炎筒

発炎筒は高速道路や踏切内での故障など、
非常事態が発生したときに使用する非常
信号用具です。

▼設置場所

グローブ ボックス左下に設置されていま
す。



⚠️注意

- 非常用信号としてのみお使いください。
- お子さまに絶対触らせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 発炎筒を使うとき、顔や体に向けるとやけどの危険があるのでさけてください。
- ガソリンなどの可燃物のそばで使用すると、火災をまねく危険がありますのでさけてください。
- トンネル内では使用しないでください。トンネル内では非常点滅灯や懐中電灯で合図してください。

👉アドバイス

- 使用方法は、発炎筒に記載されています。あらかじめよく読んでください。
- 発炎筒を使うときは、非常点滅灯も点滅させてください。
- 発炎筒には有効期限がありますので、事前に確認しておいてください。



けん引される時

故障車の移動は、スバル販売店、スバル指定サービス工場、または専門業者に依頼し、車両積載車で4輪とも持ち上げて運搬してください。

(スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は、別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。)

⚠警告

- 後輪だけをもち上げたけん引は、車両が不安定になるので、行わないでください。
- AWD車の場合、前輪、または後輪だけをもち上げたけん引は絶対にしないでください。
前輪、または後輪だけをもち上げて運搬すると、駆動装置が損傷したり、車がレッカー車(台車)から飛び出すおそれがあります。

やむを得ず、ロープによるけん引をするときは、下記の注意にしたがってください。

▼けん引を行う前に

⚠注意

- 他車をけん引する能力はありません。
車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。
- ロープによるけん引を行う前に、駆動系に故障がないことを、スバル販売店、スバル指定サービス工場にご確認ください。
駆動系に故障の可能性がある場合は、ロープによるけん引はしないでください。
- ロープによるけん引をするときの速度は30km/h以下、けん引距離は50km以内にしてください。この速度・距離を超えると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。





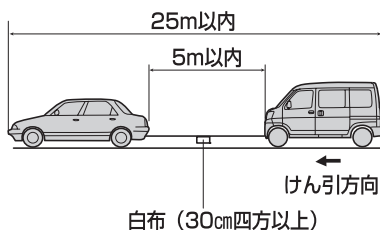
△注意

- けん引される車は、下記の事項を守って慎重に運転してください。通常と同じ感覚で運転すると、事故につながるおそれがあります。
- できるだけ人や荷物をおろし、車体を軽くしてください。
- エンジン スイッチはハンドル ロックを解除させるために“ACC”の位置にし、セレクト レバーはNレンジにしてください。
- エンジンが停止していると、いつもよりハンドル操作が重くなりますので、できるだけエンジンを始動してください。また、ブレーキの効きが悪くなりますので、通常より強めにブレーキペダルを踏んでください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して、効かなくなるおそれがありますので、けん引しないでください。

けん引の方法

前の車の制動灯に注意して、常にけん引ロープをたるませないように気を付けてください。

また、けん引ロープには必ず白い布（30cm四方以上）を付けてください。



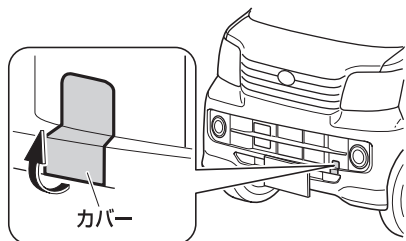


ロープをかける位置

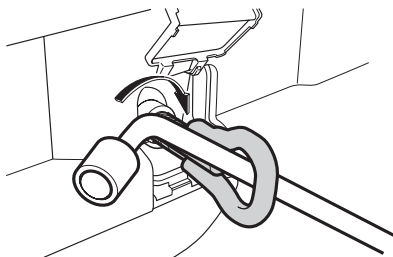
ロープは必ず車体先端のフックにかけてください。

▼けん引フックの取り付けかた

1. カバーを上側に持ち上げながら、矢印の方向に外します。

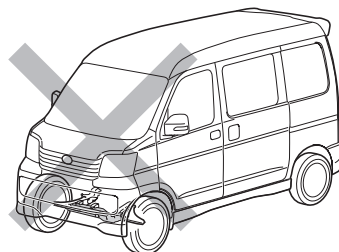


2. けん引フックを矢印の方向に回しながら差し込み、ホイール ナットレンチでしっかりと固定します。



アドバイス

- フロント サスペンションメンバーにロープを取り付けしないでください。



- けん引が終わったら、けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。



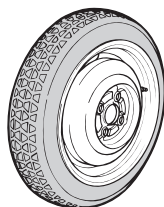
いざというときに いざというときの処置

パンクしたとき

高速走行中にパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかりと持って、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキをかけるとハンドルを強く取られ危険です。

応急用スペア タイヤ

応急用スペア タイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみ使うタイヤです。応急用スペア タイヤは標準タイヤに比べて、空気圧が高く、直径がやや小さくできています。お使いになるときは注意事項をお守りください。



△注意

- 応急用スペア タイヤを装着した場合は 80km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- この応急用スペア タイヤは型式、車種によって違います。ほかのタイヤやホイールと組み合わせたり、ほかの型式、車種の車に使わないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後輪がパンクしたときには、応急用スペア タイヤを後輪に使用しないでください。後輪がパンクしたときには、応急用スペア タイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に付けて走行してください。



△注意

- 応急用スペア タイヤにタイヤ チェーンを装着しないでください。タイヤ チェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

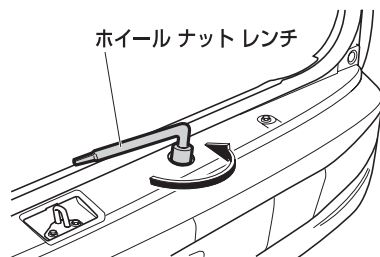
雪道、凍結路で後輪がバンクした場合は、応急用スペア タイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に付けてからタイヤ チェーンを装着してください。

- 応急用スペア タイヤを装着して突起物などを乗り越えるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用スペア タイヤ装着時は車高が低下します。同じ感覚で運転するとぶつけるおそれがあります。

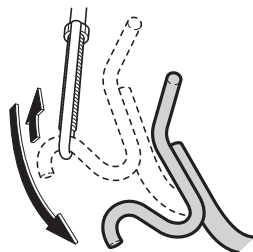
- 応急用スペア タイヤの点検は、最低でも月1回行ってください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。(空気圧はフロント ドア開口部に記載しています。)

スペア タイヤの脱着

1. リヤ ゲートを開けて、ホイール ナット レンチで、スペア タイヤ キャリアががたつくまで固定ボルトをゆるめます。



2. スペア タイヤ キャリアを少し持ち上げて、フックから外します。

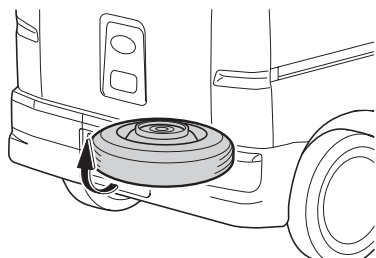




いざというときに いざというときの処置

3. 取り付けるときは、逆の手順で行います。スペア タイヤを元に戻すときは、ホイール意匠面を上部に、スペア タイヤ キャリアのセンター 部に引っかけてから、フックに掛けてください。

フックに掛からないときは、スペア タイヤの後端部分を矢印の方向に少し持ち上げた状態で、フックに掛けてください。



⚠注意

- スペア タイヤを収納するときは、取り付け状態を十分確認してください。取り付けが不安定な状態になっていると、走行中の脱落により思わぬ事故の原因になります。

👉アドバイス

- パンクしたタイヤをスペア タイヤ キャリアに取り付けるときは、ホイール表面（意匠面）を上向きに取り付けてください。
- パンクしたタイヤをスペア タイヤ キャリアに取り付けるとき、空気が十分残っていると、取り付けできない場合があります。そのときは空気を完全に抜いてから取り付けてください。
- アルミ ホイールをスペア タイヤ キャリアに取り付けると、傷付くことがあります。荷室に仮置きすることをおすすめします。



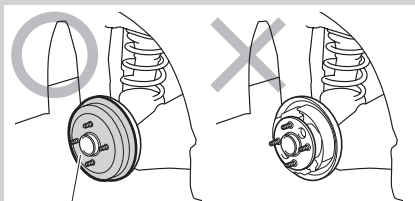
タイヤ交換

▼ 交換作業を行うにあたって

⚠ 警告

- ジャッキ アップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ずしっかりとかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキ ドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキ ドラムが外れていないことを確認してください。

ブレーキ ドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



ブレーキ ドラム

⚠ 注意

- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。

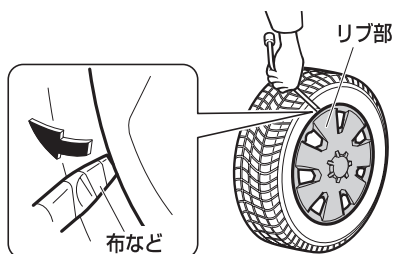
交換の準備

⚠ 注意

- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて、作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所によせ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

フル ホイール キャップ装着車

傷付き防止のため、先端に布などを巻いたホイール ナット レンチを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフル ホイール キャップを外します。



⚠ 注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイール キャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボディなどを傷付けるおそれがあります。
- ホイール ナット レンチは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイール キャップが割れるおそれがあります。

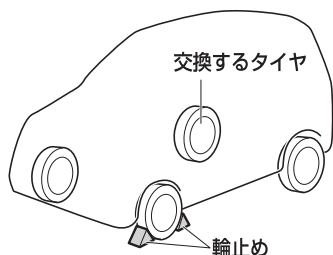




いざというときに いざというときの処置

交換の手順

1. 駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンは停止し、セレクト レバーをPレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。



アドバイス

- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

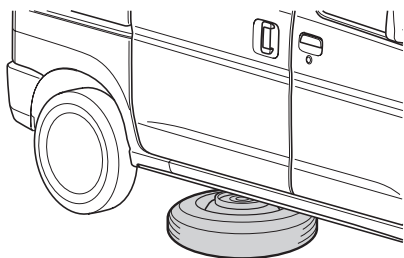
3. 工具、ジャッキ、スペア タイヤを取り出します。

(格納場所→ 180 ページ)

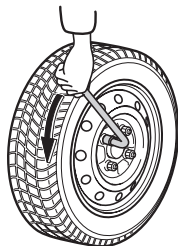
(ジャッキの使いかた→ 182 ページ)

(応急用スペア タイヤ→ 190 ページ)

4. ジャッキが外れた場合の危険防止のため、スペア タイヤは交換するタイヤの近くの車体の下に置きます。

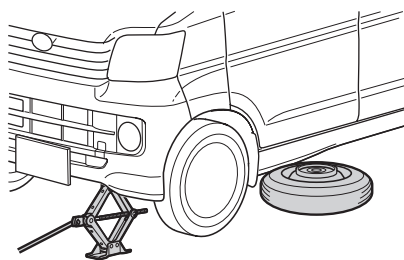


5. ホイール ナット レンチでホイール ナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。

(ジャッキの使いかた→ 182 ページ)

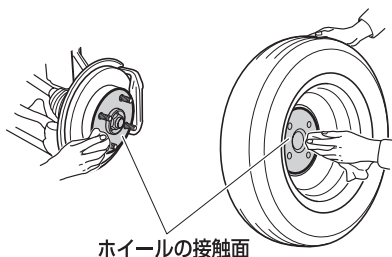


7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。

- タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。



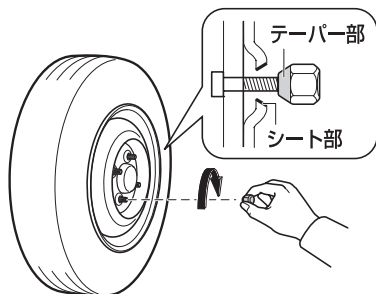
8. 交換するタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。



⚠注意

- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

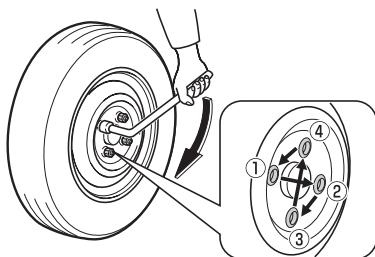
9. 交換するタイヤを取り付けます。
10. ナットのテーパ部分がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。



⚠注意

- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。

11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで 2、3 度にわたり十分締め付けます。



⚠注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
- 締め付力 (ホイール ナット レンチ先端にて) : 440~590N {45~60kgf}
- 締め付トルク : 103N・m {1,050kgf・cm}

12. 工具、ジャッキ、タイヤを所定の位置に確実に収納します。



いざというときに いざというときの処置

13. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

△注意

- パンク時に限らず、タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは4輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）の物を装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をスバル販売店で受けてください。
- アルミホイール装着車は、専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

標準タイヤに戻るとき

タイヤ交換の手順と同じです。

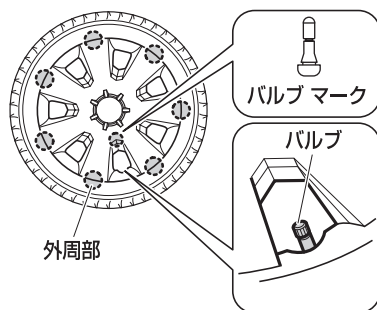
△注意

- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- タイヤを新品に交換する場合は、必ず指定のサイズのタイヤに交換してください。

フルホイールキャップ装着車

フルホイールキャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフルホイールキャップ裏側のマークを合わせ、フルホイールキャップの外周部を押し取り付けます。





バッテリーあがりの処置

下記のような症状が見られるとバッテリーあがりと考えられます。

- スターターが回らない。
- スターターが回っても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッド ランプがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。

⚠警告

- バッテリーを固定する金具やバッテリー一端子のナットを外したあとは、確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあります。

👉 アドバイス

- バッテリーあがりを防ぐために下記のことをお守りください。
- エンジンを止めたままランプをつけたり、オーディオを長時間使用しない。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不要な電装品の電源を切る。
- バッテリー液量が減っていると充電能力が低下して寿命が短くなります。ときどき点検して液の補充をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 火気をバッテリーに近付けないください。バッテリーから発生する可燃ガスにより爆発するおそれがあります。
- バッテリー液が万一皮膚や目に付いたら、その箇所を多量の水で十分洗浄して、ただちに医師の診断を受けてください。バッテリー液には希硫酸が含まれており、毒性、腐食性があります。
- 処置の手順でブースター ケーブルをバッテリーあがり車のバッテリーの⊖端子に接続しないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃ガスに引火する危険があります。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

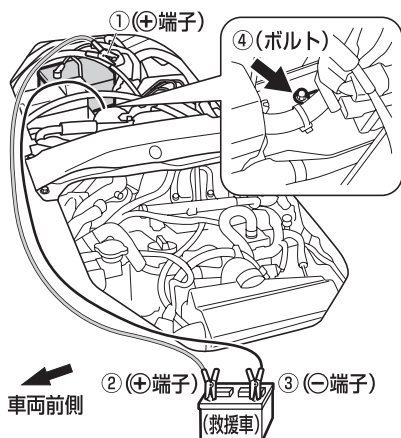




いざというときに いざというときの処置

▼ 処置の手順

1. バッテリーの⊕端子のカバーを外し、ブースター ケーブルを図の番号順で接続します。
 - ①バッテリーあがり車の⊕端子
 - ②救援車の⊕端子
 - ③救援車の⊖端子
 - ④下記の個所（アースにつなぐ）



2. 救援車（電源側の車）を始動し、少しエンジン回転を高めめに保ちます。
3. バッテリーあがり車のエンジンを始動します。
4. ブースター ケーブルを接続順序の逆で外します。

⚠注意

- 押しがけによる始動はできません。
- 必ず 12Vバッテリー車と接続してください。
- ケーブル接続の際には、⊕端子をボディ金属部や⊖端子に接触させたり、逆に接続しないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように、接続には十分注意してください。

オーバー ヒートの処置

下記の状態がオーバー ヒートです。

- 水温警告灯が点滅・点灯したとき
- エンジン ルームまたはボンネットから蒸気が立ちのぼり、エンジンの出力が低下したとき

車を安全な場所に止め、下記の処置をしてください。

▼ 処置を行う前に

⚠警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。突然、ファンが回転するため、大変危険です。

▼ 処置の手順

1. エンジン ルームまたはボンネットから蒸気が出ていたら、エンジンを止めて、蒸気が出なくなるまでエンジン ルームまたはボンネットを開けないうでください。蒸気が出なくなったらエンジンを始動しエンジン ルームまたはボンネットを開け、風通しを良くします。
2. エンジン ルームまたはボンネットから蒸気が出ていなければ、エンジンをかけたままエンジン ルームまたはボンネットを開け、風通しを良くします。



3. 1 または 2 の処置を行ったあと、エンジン ルームおよびボンネットをチェックします。エンジン ルームおよびボンネット内が下記のような状態であれば、ただちにエンジンを止めてスバル販売店にご連絡ください。
 - 冷却ファンが回転していないとき
 - ホース類などから蒸気や熱湯が漏れているとき
 - 冷却水リザーバー タンクの水がないとき
 - ファン ベルトが切れているとき
4. 水温警告灯が消灯したらエンジンを止めます。
5. エンジンが十分に冷えてから冷却水の量、ファン ベルトのゆるみ、ラジエーターのコア（放熱部）の著しい汚れやゴミの付着の有無などを点検します。
6. 冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水の補給は、別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

👉 アドバイス

- オーバー ヒートを防止するため、日頃から冷却水の量と冷却水の漏れがないかを点検するように心がけてください。（冷却装置、冷却水の点検は別冊の「メンテナンス ノート」参照）

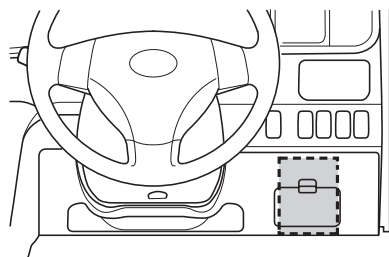
ヒューズの交換

ランプが点灯しない場合や、電気系統の装置がはたらかない場合は、ヒューズ切れが考えられます。点検、交換を行ってください。ヒューズについてはスバル販売店にご相談ください。

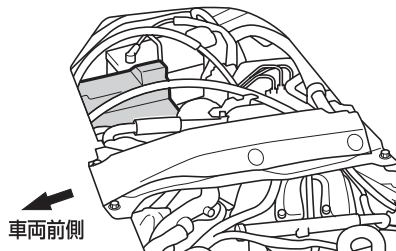
ヒューズの位置

- インストルメント パネル
ヒューズ ボックス

運転席右下のインストルメント パネルの裏に設置されています。



- エンジン ルーム ヒューズ ボックス



車両前側





いざというときに いざというときの処置

ヒューズ ボックス

ヒューズ ボックスのカバーのラベルに各ヒューズのアンペア数と受け持つ装置の名称を表示しています。

ヒューズは、ラベル表示にしたがって交換してください。

○インストルメント パネル ヒューズ ボックス

15A (D/L)	15A DEFOG	15A CIG	
20A (HTR-C)	7.5A ECU IG1	20A WIPER	
10A (HORN/HAZ)	10A TURN/BACK	10A ACC	
30A (HTR-W)	10A E/G	7.5A ST	
	7.5A ECU IG2	7.5A (ST2-HV)	

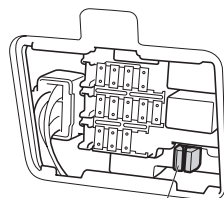
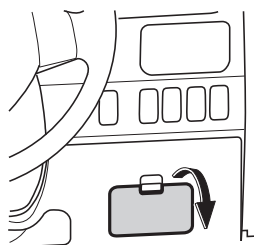
○エンジン ルーム ヒューズ ボックス

MAIN 40A		FAST 40A	AM1 40A	AM2 30A	RAD 30A	POWER 30A	B 30A
LTOA	HP/HLH 10A	HP/HLH 10A	HP/HLH 10A		(MGC)	(IG)	FFI
FOG	RAD	HEAD		BACKUP	10A	10A	10A

ヒューズの点検と交換

1. エンジン スイッチを“LOCK”の位置にします。
2. カバーを外します。

▼インストルメント パネル ヒューズ ボックス
突起物を押さえながら矢印の方向に動かし、ヒューズ ボックスのカバーを外します。

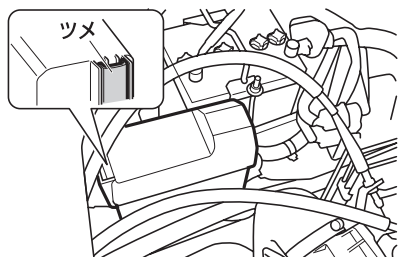


ヒューズ プラー

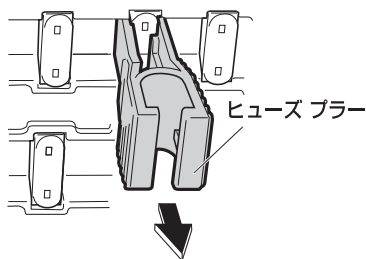


▼エンジン ルーム ヒューズ ボックス

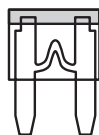
カバー横のツメを押しながら、カバーを外します。



3. 備え付けのヒューズ プラーを使用して、ヒューズを挟んで外します。



4. 取り外したヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換してください。ヒューズが切れていないときはほかに原因が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。



(正常)



(切れているとき)

⚠注意

- 交換してもすぐに切れてしまうときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱、損傷し、火災につながるおそれがあり危険です。

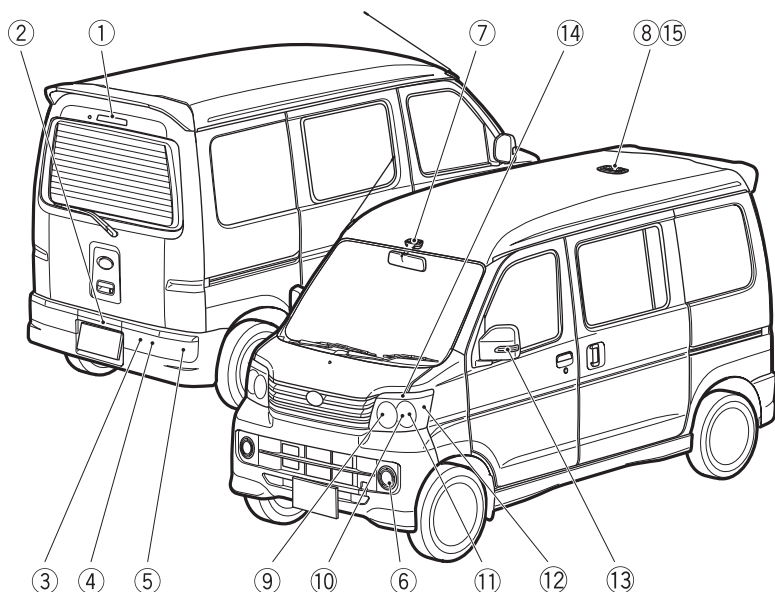


電球 (バルブ) 交換

ヒューズが切れていないにも関わらず、ランプが点灯しないときは、電球切れが考えられますので、電球を点検し、切れている場合は電球を交換してください。

- 電球の交換作業に不慣れな方や、部品などの破損が心配な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- 電球の交換作業をするときに必要な工具は、カー用品店などでご購入することができます。

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。



ランプ		電球 (バルブ)	
		W (ワット) 数	タイプ
①	ハイマウント ストップ ランプ	16	T16
②	番号灯	5	T10
③	後退灯	16	T16
④	後面方向指示灯 兼 後面非常点滅灯	21	T20 (アンバー)
⑤	制動灯/尾灯	21/5	T20
⑥	フォグ ランプ	35	H8
⑦	ルーム ランプ (フロント)	8	T10
⑧	ルーム ランプ (センター)	8	T10



下記の電球の交換は、スバル販売店にご相談ください。

- ⑨前照灯／ロー ビーム（ハロゲン・HIDランプ）
- ⑩前照灯／ハイ ビーム（ハロゲン）
- ⑪車幅灯
- ⑫側面方向指示灯 兼 非常点滅灯
- ⑬側面方向指示灯 兼 非常点滅灯（LED）
（ドア ミラー ターン ランプ装着車）
- ⑭前面方向指示灯 兼 非常点滅灯
- ⑮大型カーゴ ルーム ランプ（LED）

アドバイス

- 前照灯、車幅灯、前面、および側面方向指示灯 兼 非常点滅灯は、ヘッドランプ本体を取り外す必要があるため、光軸調整が必要となります。また、HIDランプは、高電圧を使用しているため、お客さまご自身による電球の交換はできません。スバル販売店にご相談ください。
- LEDを使用しているランプは、電球のみの交換をすることができません。スバル販売店にご相談ください。



交換の手順

⚠警告

- 電球を交換するときは、ランプを消灯させ電球が冷えている状態で行ってください。電球が熱い状態で、電球やその周辺を触ると、やけどをするおそれがあり危険です。
- 電球および電球固定具の取り付けが不完全な場合、発熱や発火、および水入りなどによる故障、レンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を修理、分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

HIDランプ装着車

- HIDランプのバルブ・コネクター・電源回路・光軸調整部分を分解したり、取り外したりしないでください。HIDランプは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いをすると、感電するおそれがあり危険です。
ランプを交換・修理・廃棄するときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

⚠注意

- 同じワット数の電球以外は使用しないでください。過熱などにより故障の原因になります。
- 同じバルブ色の電球以外は使用しないでください。道路運送車両の保安基準に適合しない場合があります。
- ⊖ドライバーなどを使用するときは、布などを巻いてください。クリップ、レンズなどに傷が付くおそれがあります。
- ランプ本体やレンズを取り外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- ネジなどでレンズを取り付けるときは、締めすぎないようにしてください。レンズを破損するおそれがあります。
- フォグランプなどに使用しているハロゲン電球は、ガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶついたり、傷を付けたりすると破損して、ガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、電球のガラス部は、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。油脂が付着すると、発熱による早期電球切れを起こします。
- 電球を交換しても点灯しない場合は、電球切れ以外の理由が考えられます。スバル販売店で点検を受けてください。

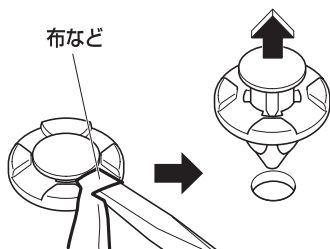


アドバイス

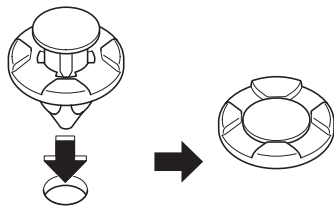
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。

クリップの取り付け、取り外しについて

- 取り外すときは、⊖ドライバーで中央部を浮かしたあと、クリップ全体を引っ張ります。



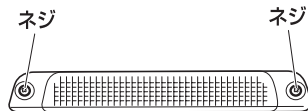
- 取り付けるときは、取り外した状態のまま差し込み、中央部を押し込みます。



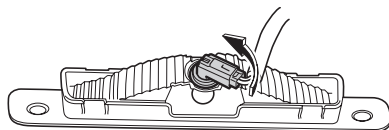
○ハイマウント ストップ ランプ

▼取り外し手順

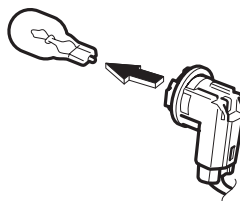
1. ネジ（2本）を取り外して、ランプ本体を取り外します。



2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。



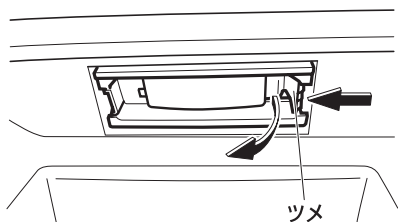


いざというときに いざというときの処置

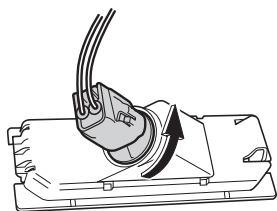
○番号灯

▼取り外し手順

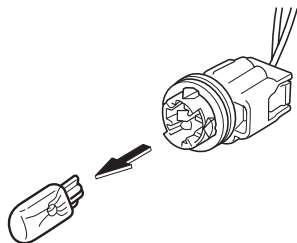
1. ツメを矢印の方向に押し、ランプ本体を取り外します。



2. ソケットを回して取り外します。



3. ソケットから電球を引き抜きます。



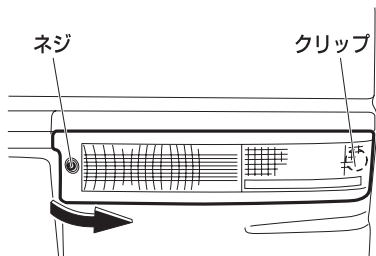
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

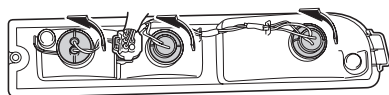
○後退灯、後面方向指示灯 兼 非常点滅灯、制動灯／尾灯

▼取り外し手順

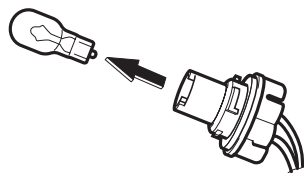
1. ネジ（1本）を取り外します。
2. 矢印の方向にランプ本体を引いて、クリップからランプ本体を外します。



3. 交換する電球のソケットを回して取り外します。



4. ソケットから電球を引き抜きます。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

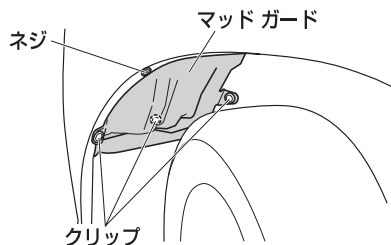


○フォグ ランプ

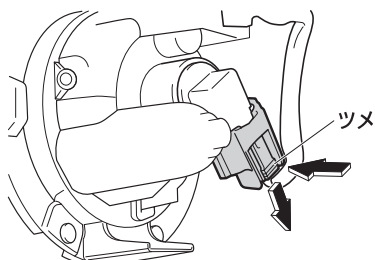
オプション/グレード別装備

▼取り外し手順

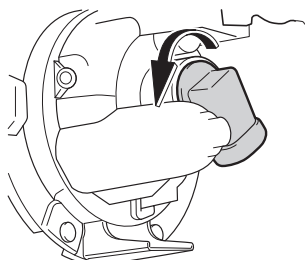
1. ハンドルを
右側の電球を交換する場合は左に、
左側の電球を交換する場合は右に、
いっぱいまで回します。
2. クリップ (3 個) とネジ (1 本) を取
り外し、バンパーとマッド ガードの
間に手が入るくらいマッド ガードを
めくります。



3. コネクターのツメを押して、コネク
ターを取り外します。



4. バルブを回して取り外します。



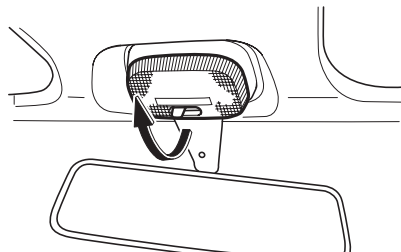
▼取り付け手順

逆の手順で行います。

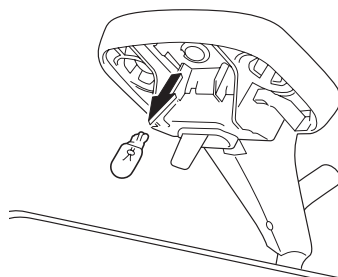
○ルーム ランプ (フロント)

▼取り外し手順

1. カバーを矢印の方向に引いて取り外
します。



2. 電球を取り外します。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

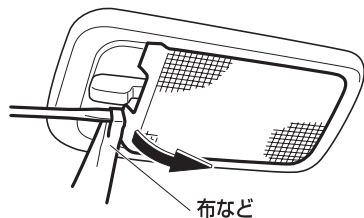


いざというときに いざというときの処置

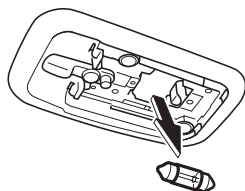
○ルーム ランプ (センター)

オプション/グレード別装備

1. ㊦ドライバーを差し込んで、カバーを取り外します。



2. 電球を取り外します。



▼取り付け手順

逆の手順で行います。

キーを閉じ込めたとき

キーを閉じ込めたときは、JAFなどをお呼びください。

別冊の「スバル サービス ネットワーク」に記載されています。

▼キーをなくした場合

キー ナンバーを最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

👉 アドバイス

- キーの閉じ込みで困らないために下記の習慣を心がけてください。
- 日頃からキーを使ってロックしてください。
- バッグなどにスペア キーを入れておいてください。



車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、下記の手順で車両を停止させてください。

○緊急停止方法

1. ブレーキ ペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

⚠警告

- ブレーキ ペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2. セレクト レバーをNレンジに入れます。

▼セレクト レバーがNレンジに入った場合

3. 減速後、車を安全な道路脇に停めて、エンジンを停止します。

- ▼セレクト レバーがNレンジに入らない場合
4. ブレーキ ペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。
5. エンジン スイッチを“ACC”の位置にして、エンジンを停止します。



6. 車を安全な道路脇に停めます。

⚠警告

走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

- ブレーキの効きが悪くなりハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、可能な限り減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。





事故が起きたとき

交通事故が起きたときはあわてずに下記の処置を取りましょう。

▼ 処置の方法

1. ただちに車を止めます。車を道のはしに停車し、昼夜問わず非常用表示板を立てるなどの必要な処置を取ります。
2. 負傷者を救護します。人命救助が第一です。負傷者があれば救急車を呼んだり、最寄りの救急病院などへ運ぶなどして救護します。
3. 警察へ事故の報告をします。最寄りの警察署または派出所へ事故を報告して警察官の指示にしがいます。この届出は法令で義務付けられています。
4. 相手方の確認とメモをします。氏名、住所、電話番号などをメモしておきます。
5. 購入した販売会社と保険会社へ連絡します。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.